

//REPORT//

ユネスコスクールオンライン意見交換会

1/26 開催 第6回「模擬授業「鬼滅の刃がおもしろいわけ」から学ぶファシリテーションスキル」



2020年度よりユネスコスクール事務局はユネスコスクールオンライン意見交換会を1か月～2か月に1回のペースで実施することとなりました。今回は公益財団法人日本環境教育フォーラム(JEEF)と連携した特別編です。JEEFも参画した日中韓環境教育ネットワーク(TEEN)共同プロジェクトの一環として作成した[ファシリテーションガイド](#)を活用しながら、ファシリテーションをテーマに29名の参加者とともに対話の場をもちました。

■プログラム

開催日時:2021年1月26日(火) 17:30～18:45

時間	内容
17:30	オープニング 趣旨説明
17:35	参加者自己紹介
17:45	模擬授業:鬼滅の刃がおもしろいわけ 大分大学 教育学研究科 教職開発専攻(教職大学院) 講師 河野 晋也 氏
18:15	グループディスカッション 模擬授業を受けた感想、参加者同士授業で気を付けている点等共有する時間です。
18:35	クロージング

■ 模擬授業:鬼滅の刃がおもしろいわけ

大分大学 教育学研究科 教職開発専攻(教職大学院) 講師の河野晋氏より「模擬授業:鬼滅の刃がおもしろいわけ」をテーマに話題提供いただきました。以下、河野先生のご発表の概要です。

1. 「鬼滅の刃」と「鬼」

昨年まで、小学校(ユネスコスクール)の教員をしていました。私が担任の授業では、よく「鬼」の話が出てきました。私は見たことがないのですが、「鬼」の話をすると、子どもたちから必ず「鬼滅の刃」の話が出てくるので、その時のお話を今日はさせていただきます。そもそも「鬼」って一体何なのでしょう？実際に鬼という者は存在しないにもかかわらず、「鬼」と名付けられたり、「鬼」として扱われた人々がいたりします。なぜ彼らは「鬼」というラベルを貼られてしまったのでしょうか？「鬼」とは「そうあ

ってはないもの」を具体的に想定することで、自分たちや子供たちを戒める働きがありました。つまり、コミュニティのアイデンティティを形成する役割を担っていたのです。

2. 最近よくみる「鬼」ラベル

身近に「鬼」ラベルを貼られた人って、どんな人たちでしょうか？最近だと、あおり運転する人や他県ナンバーの車、マスクの不着用の人が挙げられますね。例えば、あおり運転であおった人は悪い人だから成敗するためにと、ドライブレコーダーの動画をインターネットに流そうとした場合、これは個人情報さらすことになりますよね。このように、間違っただけ・失敗した・変なことをした人に対する「鬼退治」が行われています。あおり運転も個人情報拡散、マスク不着用もダメですが、私たちは「鬼」を見た時に実は結構強い抵抗感や拒否反応を示してしまうことがあるのではないのでしょうか？上記の例は、「これって本当にいいのかな」と一度立ち止まって考えるポイントになるのではないかなと思っています。

3. 相手の気持ちに立ってみる

教員をしていた頃、「鬼」を使って平和学習をしていました。桃太郎のお話の中で、相手のことを「よくない」「わるい」「おかしい」と決めつけているのも、自分のことを「よい」「正しい」「あたりまえだ」と決めつけているのも桃太郎自身です。皆さんがそれぞれ大事だと思っていることは、本当にすべての人が大事だと思っていることなのでしょうか？自分のことを「正しい」「あたりまえだ」と決めつけているのは、実は私たち自身なのかもしれません。皆さんは ESD や環境教育に興味をお持ちだと思います。持続不可能な社会の担い手が変容して、持続可能な社会の担い手になっていきます。この過程で、自分から変わっていく人もいれば、何かしらの影響で変わっていくこともあるかもしれません。しかし、この変容のプレッシャーも鬼退治の 1 つなのかもしれません。

「鬼滅の刃」は、人間の立場だけでなく鬼の目線で考えることのできる場面があります。このように、必ず一度他者の視点にたつて見るのが大事なのではないかと思います。そういった視点から「鬼滅の刃」をテーマに平和学習や環境教育、その他の学習をつなげていくとよいのではと思っています。

■ 質疑応答

Q: 平和学習と鬼退治の話をつなげて授業実践されたという話でしたが、その時子供たちはどのように平和と鬼退治をつなげていったのでしょうか？

A: 私は、博報堂さんが作られた広告「ボクのおとうさんは、桃太郎というやつに殺されました」というポスターを毎回平和学習の時に紹介していました。鬼の目線に立った時に見える方が変わることについて聞いてもらい、鬼のラベルを貼った人間と貼られた側の立場、この 2 つの視点で物事を考えたらどうだろうと問いかけていました。例えば、戦争が起きる時、相手の国のことを鬼と見なして戦っていたかもしれないけれど、相手の国の人達からしたらどうだろうという話をします。鬼のラベルを貼るのは戦争だけでなく、先ほどお話したように普段の生活の中にもあることだと思います。

■ 模索しながら、できることから！

模擬授業の後、参加者同士の対話の場が持たれました。以下、話し合われた主な内容です。

- 正解のない問い、発想の転換になるような問いを投げかけることの重要性を改めて認識した。
- 誰かの発言を会話でもパワーポイント(以下:PPT)でもすべて受け止める進め方が素晴らしい。
- PPT から参加者の様々な反応や答えを想定して準備されていることを感じ、感銘を受けた。
- 平和学習だけでなく、国際理解教育、人権教育、道徳、環境問題、社会問題、時事問題等様々な分野にも応用可能なテーマだと強く感じた。
- 他者の視線を入れている点がとても面白かった。学校間交流をしているが、宗教や文化が異なる国と交流する際、お互いの違いをどのように認めて付き合っていくか、相手側の思いも知る必要があるのでは、大事な点だと思った。
- 模擬授業を聞いて感じたことは、誰の心の中にも鬼がいるのではないかと思った。
- 考え方のヒントの引き出し方がとても参考になった。
- 業務でファシリテーションスキルが必要になる場面があるが、皆さんどうやっているのか？どのように身に付けたのか？
 - 本番よりもむしろ準備に力を入れる。イベント前に参加者属性情報を入手したり、当日も始まる前に参加者の様子を観察したりして、進め方や内容に反映している。
 - テクニックの部分は「キッズコーチング」などを学んで身に付けた。
- スキル習得の機会がない(迷える)団体職員のために、ファシリテーションスキル講座を開いてほしい。
- 教員養成課程の学生さん向けの講座などもニーズがあるのでは？
- 教育関係者だけでなく、広く社会人に役立つ内容。特に20代の方にはとても参考になると思う。
- 「鬼」というテーマ(問い)から、さまざまな視点に広げていくところにテクニックを感じた。
- 最初に自分自身「鬼滅の刃」を見たことがないとお話していたことが印象的だった。先生でも知らないことがあると伝えることで、子供たちが話しやすい雰囲気を作ったのではないかと感じた。
- チャットの使い方などオンラインで実施する際のファシリテーションスキルを学ぶことができた。
- 投げかけから始まり、テンポのよさを感じた。受講していて心地よかった。



※次回は 2021 年 2 月 16 日(火)16:00～17:00 に「第 7 回「これから最も大切とされる「エイジェンシー」とは何か？その力をどう育むのか？～ESD 大賞受賞校の取組から考える～」をテーマにした対話の場をもちます。ユネスコスクールである福山市立福山中・高等学校の上山晋平教諭に発表いただきます。お申込み方法などの詳細は、[ユネスコスクール公式ウェブサイト](#)をご覧ください！皆様のご参加お待ちしております！